



成長のカギ

学生に聞く

成長に寄与した 授業紹介

調査コラムplus

vol.1



企業調査・卒業生調査 にみる社会で求められる能力とは？



企業・団体が求める力は 「親和力」

本学実施の2023年度企業調査(図1)によれば、企業・団体の採用担当者が新卒採用者に求める力のトップは、「親和力」でした。企業調査では、企業・団体の採用担当者に対し、アセスメント・テストに紐づく各能力を新卒採用者にどれぐらい求めているのかを調査しています。「親和力」とは、「他者との豊かな関係を築く能力」で、採用のプロセスにおいて、学生の中にある「多様な考えを受入れ、相手の立場に立って考えることで信頼を引き出し人間関係を構築していく力、自分から多くの人と積極的に人間関係を築いていく力」を、採用担当者は見ているのかもしれない。

企業・団体が求める力

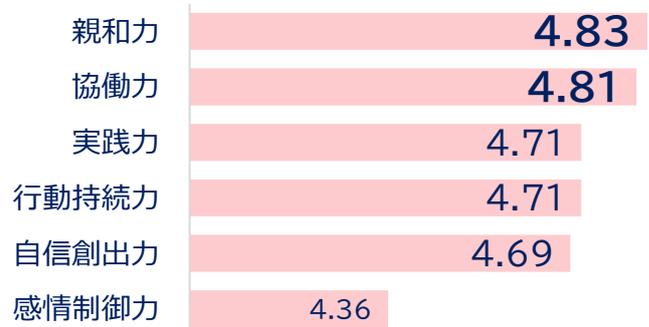


図1.2023年度企業調査

※企業採用担当者に対し、新卒採用者に求める力を5件法（求めない～求める）で調査。アセスメント・テストに紐づく各能力を回答値に応じて加重平均を算出。（N=286）

卒業生が感じる社会で 必要な力

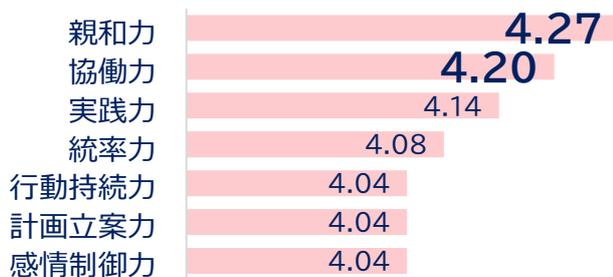


図2.2022年度卒業生調査

※本学卒業後3年・7年の卒業生に対し、社会で必要と感じる力を5件法（あまり必要ではない～絶対に必要）で調査。（N=530）

卒業生が感じる社会で必要な力も 「親和力」

一方で2024年度卒業生調査(図2)をみると、卒業生が感じる社会で必要な力のトップも企業調査の結果と同様に「親和力」でした。2つの調査を比較すると、それぞれのトップ3が「親和力」「協働力」「実践力」の順で一致しています。これら3つの能力(コンピテンシー)の強化が、就職活動やキャリア形成のポイントとなりそうです。

どのようにコンピテンシーを強化 するのか？

では、これらの能力をどのように強化すればよいのでしょうか。本学では学生への解説会はもちろんのこと、内部質保証活動を通して、アセスメント・テスト結果のレビューを行い、学生のジェネリックスキルの状況を踏まえながら、授業へのフィードバックを図っています。次頁以降では、特に成長が著しかった学生の声を踏まえて、自身の成長に寄与したと感じた授業を抽出し、教員の思う授業ポイントと学生の思う推薦ポイントについて双方の視点から、各学部の特徴的な授業を紹介していきます。

※掲載学部は取材時期の順番で掲載しています。

2023年度 通年 政経学部 授業科目

基礎ゼミナール

政経学部 経済学科 講師 赤石 秀之 先生

※本授業は同学部の佐藤恵先生、柴田怜先生との合同ゼミ形式によるものです。

授業内容

SDGsプロジェクト『目指せ食品ロス・ゼロ！ミッションin国士館大学』では、学生達は食品ロス削減を目指す企業と協力し、実践的な課題解決に取り組みます。



先生に聞く授業ポイント

未来を担う学生の視点から環境問題を考える！

この演習では、大学生が自分達で疑問を見つけ、解決策を考え、他者に効果的に伝えるスキルを磨きます。関連する文献や専門分野に焦点を当て、問題解決の基礎を学びます。環境経済学を軸に、問題解決能力とコミュニケーションスキルを高め、卒業後に必要となる能力を身に付けることを目指します。

Point 1

実際の問題をテーマにした課題解決

フードロスやフードシェアリングといった**現実の問題をテーマに、環境問題やSDGsの理解を深める**授業です。初回では、企業担当者が食品ロスの実情やサービスの概要を説明し、利用率や継続性の課題を提示します。**学生はグループでこれらの課題に取り組み、解決策を提案**します。大学生のうちから企業に課題解決策を提案できるのは、非常に貴重な学びの機会となります。

Point 2

学習方法はPBL

学習方法はPBL (Project Based Learning)です。**仲間と協力して、リサーチやデータ解析を通じて問題を探求し、最適な解決策を模索**します。PBLの良さは、実践的な問題解決能力を育むことです。現実世界の課題に立ち向かい、チームで協力して解決策を探求することで、深い理解と創造性を培います。また、**実践的な経験を通じて、自己成長と自信を築くことができます**。

Point 3

学生主体で進めていく

課題解決型学習は初めての人にとっては挑戦的ですが、失敗も成長の一環と捉えられます。**教員はサポートの提供に留まり、解決策の探究は学生達に任されています**。もちろん、困ったことがあればいつでも相談に乗りますので、学生には**企業の課題に取り組む楽しさ**を感じてもらいたいです。授業では、中間プレゼンテーションを通じて進捗を確認し、適切な支援を行います。

学生に聞く推薦ポイント

実問題を題材にした実践型の授業でスキルアップ！

実践的なプロジェクトに積極的に参加し、**現実問題の課題に取り組む**ことで、情報整理能力や問題解決能力を実践的な場で高めることができました。具体的には、複雑な情報や課題に対して、整理されたアプローチを考え、**実行するためのスキルを身につけました**。



Solution

プレゼンテーションスキルの向上！

わかりやすいプレゼンテーションスライドを作成するためのアドバイスをしてくれて、効果的なプレゼンテーションを行うことができました。先生の指導により、より効果的な**プレゼンテーションスキルを磨くことができました**と感じています。



Stimulation

先生からのフィードバックが成長につながる！

先生からのフィードバックを真摯に受け止め、次の段階に活かしました。具体的には、先生からの指摘や提案を参考にして、プロジェクトやプレゼンテーションの改善点を抽出し、次の段階の準備や実行に反映させることで、**成長につながった**と感じています。



Growth

担当教員からのコメント

このPBL型の授業は、学生にとってただ教員の話聞くだけの授業ではなく、自分で考えて行動していくため、将来のキャリアにも直結する実践的な学びの場となります。食品ロス削減という具体的な

テーマを通じて、持続可能な社会を目指す行動力と責任感が育めると思います。

2023年度 秋期 理工学部 理工学科 授業科目

機械設計製作プロジェクトB

理工学部 理工学科 准教授 山口 恭平 先生

※本授業は同学部のモフィディ先生、佐藤公俊先生との合同開講によるものです。

※本掲載の授業科目は開講当時の内容です。授業科目の詳細は、年度ごとに更新されるWEBシラバス等をご参照ください。



授業内容

学生たちのグループは、少人数のものづくり企業を想定し、停電時にも利用できる手回し発電機の商品企画から設計、製作までを行います。そして、最後に各グループが取り組んだプロジェクト内容とその成果をプレゼンテーションします。

先生に聞く授業ポイント

架空の会社を想定したモノづくり体験！

この演習では、商品企画から概略設計、部品の調達、詳細設計、加工組立、性能評価、そして最後に成果の発表まで、一連の流れを体験します。このプロセスで成功や失敗を経験しながら、ものづくりエンジニアとして必要なスキルや素養、チームワークなどを総合的に身につけることができます。

Point 1

知識をものづくりに活かす授業！

機械工学系において、1年次には工学の基礎、2年次には機械工学基礎を学び、3年次には機械工学の専門分野に焦点を当て、**徐々に難易度を増していく体系的な学び**が提供されます。エンジニアとしては、学んだ知識を実際のものづくりに活かすことが不可欠であり、重要です。2年次に配当される本授業を通じて、学生は理論と実践を結びつけ、問題解決能力や応用力を育てる貴重な経験を積むことができます。

Point 2

企業さながらのリアル体験

専門科目の理論を実践的なものづくりに応用し、学生の応用力を高めます。問題解決時には修得した多様な知識を活かし、問題解決能力を養います。さらに、**少人数チームでの取り組み**を通じて、チームワークやコミュニケーション能力を向上させます。実際の経験を通して加工技術や設計ノウハウを身につけ、**自らの手で商品企画・製作**することで、学生の自主性や創造性、責任感を育成します。これらの経験は、将来のキャリアや社会での活躍に不可欠です。

Point 3

トライ＆エラーの繰り返し！

社会では、答えが明確な課題は少ないため、エンジニアには**トライ＆エラーを繰り返し、理想に近づけていく**能力が求められます。この授業において、先生は後方支援に徹し、基本的に学生にプロジェクトを委ねます。そのような環境下で、**学生同士が協力し、共に解決策を模索**することで学びが深まります。失敗を恐れずに進むことが求められる中で、学生は成長していきます。

学生に聞く推薦ポイント

制約がある中で、企画を考える！

この授業は部品などがあらかじめ準備されているわけではないため、チームメンバーと協力して、**製作物に関する商品企画からスタートし、部品の選定や購入、予算の管理などを行いました**。様々な制約の中で検討することで問題解決能力が育まれました。



エンジニアとしての姿勢が学べた！

個人ではなくチームでのものづくりが重視され、**設定した目標・ゴールに対し、チーム内で計画を立て、実行するプロセス**を通じて、様々な能力が培われました。低学年のうちからこのような経験が得られることは、**エンジニアを目指す上で、非常に貴重**でした。



チーム全体で協力しながら、困難に立ち向かう！

設計や加工、製作の過程において生じた様々な問題に対して、チーム全体で協力して**トライアンドエラーを重ねました**。**困難に立ち向かい、解決できたときの感動**は非常に嬉しいものでした。



担当教員からのコメント

「ものづくりの企画から設計、製作に至るまでの一連の作業を通じて、ものづくりプロジェクトを立案・運営・完遂するための素養を得ること」を目的とするこの授業では、自動車をはじめとする工業製品のものづくりと同様のプロセスを経験することが出来ます。また、

ものづくりの会社では、チームで仕事を進めることが多いため、本授業を通じて、チームワークを学び、共同作業に不可欠なコミュニケーション能力の向上を図ります。それらは将来の舞台で大いに役立つものと考えています。

2023年度 集中 文学部 史学地理学科 授業科目

※本掲載の授業科目は開講当時の内容です。授業科目の詳細は、年度ごとに更新されるWEBシラバス等をご参照ください。

地理学野外実習B

文学部 史学地理学科 講師 桐越 仁美 先生



授業内容

大泉町におけるブラジル系エスニック・ビジネスの立地と集積状況を把握することを目的としたフィールドワーク型の科目です。2日目の調査後、関連研究との比較を行い、大泉町におけるエスニック・ビジネスの現状を分析します。

先生に聞く授業ポイント

地理学的な見方・考え方を養う野外実習！

この演習では、地域の文化や歴史を実地で調査し、分析する方法を学びます。フィールドワークを通じて、街や地域の人々の生活や環境に触れ、その特性や背景を理解します。現地での観察やインタビューを通じて、地域の魅力や課題について深く学びます。これにより、分析力だけでなく、地域社会への理解を深めることができます。

Point 1

実際に起きている事象をテーマ

「大泉町には外国人が人口の20%を占めています、その理由は何でしょうか？」その背景には、立地要因や町の外国人の誘致など、さまざまな要因があります。**実際の状況をテーマに、実地での調査や分析**を通じて、地域の多様性や社会の構造を深く理解することができます。これにより、楽しみながらより深い知識を身につけ、地域社会に関する洞察力を高めることができます。

Point 2

1泊2日のフィールドワーク

1泊2日のフィールドワークは、短期間の集中講義のため、**調査や活動に集中して取り組む**ことができます。また、一晚現地に滞在することで、その場の雰囲気や文化をより身近に感じ、深い理解を得ることができます。さらに、**チームメンバーとの交流や協力を通じて、チームワークやコミュニケーション能力を向上**させることができます。通常の講義形式とは異なり、密度の濃い学びの体験が得られるのも魅力の一つです。

Point 3

思考の幅を広げる！

2日間のフィールドワーク内では、グループメンバーや他のチームから、調査研究を通じて得られた情報や解釈についての発表を聞くことで、**自分とは異なる視点やアプローチを知る貴重な機会**があります。これにより、学生は新たな学びや発見が得られたと感じ、**自らの思考の幅を広げ**ることができます。1つの事象に対して様々な見方ができることを体感し、より深い分析力を養うことができます。

学生に聞く推薦ポイント

モチベーション高く調査研究を進める事ができた！

先生からのフィードバックでは、私たちの発表を通じて改善点や意識すべきことについてアドバイスを受け、同時に**良かった点も褒められました**。良い点を見つけてくださることで、調査研究の**モチベーション**も高まりました。



Solution

他者から得られる新たな気づき！

調査結果のミーティングでは、各班の視点や気づきに焦点を当て、「どうしてそういうところを見るに至ったのか」「なんでそれに気がついたのか」という観点で議論しました。このアプローチにより、**新たな気づき**が生まれ、深い理解が促進されました。



Stimulation

反省を活かして再挑戦！

1日目に他の班の発表や先生からのフィードバックを受け取り、調査の甘さを認識しました。その経験を翌日の調査に生かし、より質の高い調査を行うことを目指しました。**1日目の調査の反省を翌日に再挑戦**できることは、とても自分の学びになりました。



Growth

担当教員からのコメント

教員ごとに実施する野外実習型の授業で、7コースに分かれて実施しました。私のコースには13名が参加し、3～4人ごとのグループに分かれて大泉町を調査しました。学生たちは初めて話すメンバーもいるなか手探りで調査を始めましたが、次第に打ち解け、初日の

夜のミーティングでは活発にグループディスカッションをするようになっていました。

地域の人へのインタビューも学生たちが主体的におこなったもので、こちらの予想を上回る積極的な姿が印象的でした。

救急救命処置実習3

体育学部 スポーツ医科学科

櫻井 勝 教授 喜熨斗 智也 准教授 坂梨 秀地 助教

※本授業は同学部の櫻井先生、喜熨斗先生、坂梨先生が担当する合同の講義・実習形式によるものです。

授業内容

救急救命士国家試験の合格を念頭に、救急救命士として、刻々と変化する病態に対応し、確実な判断と救命を行うための基本的な観察・処置を体得します。また医療資器材を用いた救急救命処置の理論と技術を実習を通して習得し、高度な救急救命を学びます。

先生に聞く授業ポイント

現場応用力を養成する救急救命士のための実践的な授業！

この授業では、講義と実習を一体化し、救急救命士に必要な応用力養成に重点を置き、知識の根本的な理解と医療資器材を使用した実践的な演習を網羅しています。教材の予復習やミニテスト等で学びを深め、現場さながらの実習で応用力を養います。実習では、東京消防庁出身の実務経験者が実習をサポートし、現場で即戦力となる人材を養成しています。



Point 1

座学と実技は表裏一体！

座学と実技は表裏一体であり、実技を行う前提としてしっかりと知識が必要です。知識なしで実技を行っても効果が期待できません。知識(目的)を持って実技に臨むと、**実習設備が実際の救急現場に変わっていきます**。教科書は器官毎で単元を構成しているので、各単元間の連携を教えています。例えば、ある病態をテーマに**徹底的に質疑応答**を繰り返し、一つ一つの兆候の原理を深めることで、ある兆候を見たときに身体の中で何が起きているのかを理解出来るように授業を進めています。

Point 2

現場経験者による手厚いサポート体制

経験豊富な東京消防庁出身の実務経験者が実習助手として、実習をサポートしてくれます。各グループに1名がサポートにあたるため、**安心して学べる体制**を整えています。実技中の不明点は、実習助手に指導を仰ぎながらその場で問題を解決し、実習を進めることができます。実習前には**毎回ミニテストを実施**し、理解度の確認を行っています。実習用の**オンデマンド教材を用意**しているため、実習前後に予習・復習を行うことができ、授業外でも**自発的に各グループが練習**を行っています。

Point 3

仲間意識と高いモチベーション！

授業では、学習過程の中で仲間意識を高めることが重要と考えています。実習や座学での各テストを通して、**学生間で理解度を共有**し、意識的に学生の学びをサポートして全員体制で授業を展開しているため、学生同士で**助け合う・学び合う**といった**仲間意識**が生まれ、学生個々の**学びへの高いモチベーション**に繋がっています。このような授業の仕組みによって、現場で求められる**リーダーシップやチームワーク**が自然と養われていき、最終的には救急救命士国家試験の**高い合格率**に繋がっています。

学生に聞く推薦ポイント

「なぜそうなるのか？」教科書には載っていない知識の修得！

教科書の丸暗記ではなく、一人一人が順番に「なぜそうなるのか？」を考えながら進めていくため、**教科書には載っていない知識**がどんどんと増え、**知識の定着**に繋がりました。また各グループで授業を進めていくため、**理解できた時の達成感**がとても大きいです。



Solution

グループ制による学生間の積極的な授業参加意識！

毎回の先生の質問に答えられるように、参加する学生は、皆一生懸命に**授業の予習・復習**を行い授業に臨んでいるため、学生間で**積極的に授業に参加する雰囲気**を感じています。また**ミニテスト等の実施**により、学生間で自身の**理解度を確認**できるのがとても良かったです。



Stimulation

知識の根本的な理解！

以前は教科書どおりに覚えようとしていましたが、授業では先生方が**知識の根本や本質**を教えてくださいるので、この授業を受けてからは、**他の学び**においても、**根本的なことを理解**することが、**学習の一番の近道**であることがとてもよく分かりました。



Growth

担当教員からのコメント

- 救急救命士として必要なスキルを確実に身につけることは当然ながら、日々進歩する医学に対応できるよう、自ら学ぶ姿勢・力を養ってほしいと思います。
- この授業に限らず、なぜそうなるのかを追求し、根拠を持った救急救命士になってほしいと思います。
- 生命の尊厳という絶対的な正義に貢献できる精神と能力を勝ち取ってほしいと思います。単に国家資格に合格するのではなく、人間の体の一つ一つの部分が全て繋がって診ることができる救急救命士に育ってほしいと思います。

法学演習Ⅰ・法学演習Ⅱ・卒業課題

法学部 法律学科 教授 吉開 多一 先生



授業内容

法学演習Ⅰ・法学演習Ⅱ・卒業課題は2・3・4年次に開講され、大学での学びを総括する卒業課題の完成を目指し、段階的、体系的にカリキュラムを構成しています。一連の授業では、法科大学院で使われる事件記録教材の検討や模擬裁判の実施を通じ、学生自ら捜査や裁判の実情を学ぶとともに、その成果を振り返ることで学修を深めます。

先生に聞く授業ポイント

実務と法律の理解を通して考える将来設計

授業では単に法律の知識を学ぶのではなく、実践的な法的思考力を身につけるため、法律が社会の中でどのように使われているのか、ディスカッションや模擬裁判を通じて、主体的に学修できるようにしています。3年次秋期以降は全員で学修成果を振り返り、4年次の卒業課題で各自のラーニング・ポートフォリオにまとめていきます。

Point 1

コミュニケーションは聴き上手！

2年次春期では、視聴覚教材や手記等を利用して、警察官をはじめとする刑事司法関係者の仕事を深く学びます。東日本大震災時に現地の警察官が被災者に寄り添ったエピソードなどを読み、自らの考えをまとめ、班ごとにディスカッションをして、警察官や公務員に必要なものは何かを見出していきます。その過程では、例えば**コミュニケーションの本質は相手の立場を理解して聴き上手になること**だと学んでいきます。学生の多くが志望する刑事司法の仕事の題材にすることで、**主体的に学修する動機付け**もしています。

Point 2

実務を踏まえた実践的な授業！

実際の**事件記録の大半は警察官作成の書類**です。事件記録教材を使って**法的根拠は何か**を確認し、講師の実務経験も交えて、警察官がどのように刑事訴訟法を活用しているのかを学び、**刑事司法の実務**を理解していきます。2年次秋期までに捜査書類を検討し、3年次春期は**模擬法廷室**を使って**模擬裁判**を行います。学生を裁判官役・検察官役・弁護人役・被告人役・証人役にして、**根拠(証拠)に基づく主張**とは何かも考えます。ゼミ外では**警察署、検察庁や刑務所などを見学**し、第一線の実務家から直接話を聴く機会も設けています。

Point 3

大学生活から学修成果の振り返り！

3年次秋期・4年次では、それまでの学修を振り返り、**ラーニング・ポートフォリオを作成**していきます。各自でまとめた学修成果の報告、他の学生とのディスカッションを通じて、大学生活で学んだこと、志望する仕事との結び付きなど、**学修成果を言語化**します。警察官志望の学生が多いゼミですが、**志望理由や学修成果の言語化は就職活動で必須**であるため、**他業種志望の学生にも有益**です。志望理由と学習成果を結び付けるため、学生には足を使って志望する仕事の説明会等に数多く参加し、**現場の話をよく聴く**ことを勧めています。

学生に聞く推薦ポイント

実務経験に基づく実践的な授業と丁寧なフィードバック！

実務経験のある先生ならではの実践的な授業が特徴で、刑事訴訟法が実際の事件でどのように活かされたのかを具体的に学べ、**将来に繋がるイメージを持つ**ことができます。学生一人ひとりに**丁寧なフィードバック**があり、**真摯に対応**してくださるため、安心して授業に取り組むことができました。



Solution

警察官志望者が集う充実した学びの場！

吉開ゼミは**警察官志望の学生が多く**、先生もそれに合わせた授業を展開していただきます。**警察署や刑務所の見学**を通じて実際に働いている方々の話を直接聴く機会があり、それが**大きなモチベーション**となりました。**同じ目標を持つ仲間と切磋琢磨**できる明るく仲の良い雰囲気も魅力です。



Stimulation

根拠に基づくコミュニケーションと傾聴力！

自身の意見を根拠づけて伝えるコミュニケーションや、**相手に寄り添って話を聴く傾聴力**の重要性を学びました。実際にオープンキャンパスの個別相談を担当した際に、**意識的に実践**したところ、相談者から「あなたに相談して良かった。」と感謝の言葉をいただき、**大きな自信**となりました。



Growth

担当教員からのコメント

私は刑事司法の実務を経験してから大学教員に転身したため、ゼミでも抽象的、観念的な議論をするのではなく、**実社会で役に立つ実践的な法的思考力を養成**したいと考えています。そのためには様々な現場で、法律が紛争解決の道具として活用されている実情

を知ってもらい、**実践と結び付いた法学教育**を提供できるように努めています。それぞれの将来を見据えつつ、ゼミの仲間と一緒に、**主体的かつ楽しく学修**に臨んでもらうことで、卒業後に希望する進路へとつなげていくサポートをしていきます。

ビジネスコミュニケーション

21世紀アジア学部 21世紀アジア学科 教授 榊原 一也 先生

授業内容

ビジネスコースの入門として、「経営」への興味関心を引き出し、経済や経営戦略の基礎的な知識の修得を目指します。授業を通じ、経営分野(マネジメント、マーケティング、経営戦略、アカウンティングなど)や経済分野(経済の仕組み、日本の経済など)の知識を深めてもらい、今後の発展的な授業に向けた土台となることを目的としています。



先生に聞く授業ポイント

あの企業のビジネスモデル・プランを！

授業の前半は「競合他社との競争」、後半は「顧客とのコミュニケーション」を学びます。SWOT分析やセグメンテーション(市場細分化)等の様々な分析手法を使い、経営環境の捉え方を習得し、これらを踏まえて、最終課題では実際に自分の好きな企業のビジネスモデルやビジネスプランを考案していきます。

Point 1

興味関心を引き出し、主体性を養う！

この授業ではビジネスに**興味関心**を持ってもらい、**学生に主体性を持ってもらう**ことを起点としています。経営の授業となると難しい専門用語を多く学びますが、単純な座学だけで終わってしまいがちです。もちろん授業では**様々な分析のフレームワークを学びますが、実際に使うまでに至らない場合が多い**と思います。そこでこの授業では**学生に好きな企業を決めてもらい、授業で学んだフレームワークを使って実際に分析すること**に重点を置いています。授業後は**リアクションペーパーを使い、授業での学びを振り返って**もらいます。

Point 2

「差別化」は地道な努力！

経営戦略では、**競合他社との「差別化」**について考えてもらいます。差別化には二通りの視点があり、一つ目は**企業側の視点**、二つ目は**顧客の視点**があります。ライバル企業と違うことに取り組むことが良い差別化ではありません。顧客の目線になったときに、**自分のテリトリーにある顧客**がどのようなものを欲しているのか、**本当の差別化とは何か**ということを考えるのが重要です。経営戦略の常套句はありますが、ライバル企業はいずれも地道に顧客獲得に努力し、歴史を経て現在の地位に辿り着いています。授業では**地道な取り組みの重要性**を伝えています。

Point 3

制約条件の克服。失敗を投資に！

企業研究では、自分にとって**良い経営者とは何か**を問いかけています。初めに**機会の創造があり、経営者は新しいニーズを作れば良い**のですが、機会には必ず**制約条件**があり、それを克服しなければなりません。また、制約条件は失敗を導きます。例えば、貴方が英語教員になる機会を見つけても、教員になりたい人が大勢いるという制約条件があり、教員になれない場合もあります。でも頑張った英語能力は残るので、発想を変えれば翻訳家やNYでのお笑い芸人の道も開けます。**いかに失敗を投資に変えるのか**、これが**一番重要な経営者の能力**だということを**事例をあげながら丁寧に**伝えています。

学生に聞く推薦ポイント

自分事として経営戦略を使う！

最後の課題提出に向けて、自分の気になる企業を選び、**授業で学んだ3C分析、5フォース分析等の考え方を使って、実際にその企業の事業戦略や製品開発を提案**します。私の場合は、某出版社を調査し、**マーケティング戦略や海外展開の可能性を提案**しました。自分の関心のある企業に触れるので、大変印象に残っています。



Solution

企業分析を通じた新たな視点！

企業分析を通じ**他社との「差別化」の重要性**を学びました。授業の中で、某化粧品メーカーが、競合他社と比べ海外売上高が高いことに着目し、その**メーカーの戦略的な取り組みや市場の変化**を学び、新たな視座を得ることができました。得られた学びは**就職活動やインターンシップで企業を調べる観点**が広がりました。



Stimulation

インターン先での企画提案！

某百貨店で参加したインターンシップでは販促イベントの企画提案に携わらせていただきました。**授業での学びを活用**して、販売時期や市場のトレンドを盛り込み、他学生と協力しながら**積極的に良い提案**することが出来ました。**企業担当者の方からも好評**をいただき、大変満足しています。



Growth

担当教員からのコメント

学生の皆さんには、自ら興味や関心を持ち、主体的に行動できる人間へと成長してほしいと願っています。これから労働市場に出るにあたり、自身の価値を見つけ、それを築き上げていくことが重要です。21世紀アジア学部の学生は、多様なアジアの言語や文化を学ぶ

ことができるため、個人の「差別化」という観点からも、今後の経済市場において強みとなる素晴らしい資質を備えています。その強みをさまざまな分野で活かし、ライバルに負けない人材として活躍してくれることを期待しています。

優良中堅・中小企業講座

経営学部 経営学科 教授 小林 崇秀 先生

授業内容

世界的なニッチトップ企業を含む、日本の隠れた優良中堅・中小企業の経営者を招き、各企業の事業展開や組織運営、経営戦略について学びます。日本には多くの優良企業が存在することを実感してもらい、各企業の競争優位性や技術・製品の強み、新事業展開等の考え方を学びます。また経営者の体験談を通じて、キャリア意識の向上を図るとともに、ビジネス人基礎力の養成を目指しています。



先生に聞く授業ポイント

本学ならではの特徴的な授業！

普段話すことができない企業トップの方が講師となり、経営・事業のことはもちろん、ご自身の人生経験や体験談を聴くことができます。授業中は気兼ねなく自由に質問を行うことができ、様々な経営者との対話を通じて、色々なモノの見方・考え方を学び、人間力や今後のキャリア形成に役立てることができます。



Point 1

経営者からの貴重なフィードバック！

授業中は**講義支援システム**を利用し、経営者自らが**リアルタイムに疑問・質問に回答**します。授業中に聴きそびれた点は、授業後でも課題の小レポートを通じて経営者に聴くことができ、回答は講義支援システムを通じて**履修者全体に共有**されるため、**他の学生の様々な視点を**知ることができます。自身では気付かなかった点を発見することで、新たな視点から**モノの見方・考え方を**深めることができます。小レポートに対しては、**経営者からのフィードバック**もあり、他大学にない**企業トップによる特徴的で貴重な授業**を展開しています。

Point 2

経営者の哲学に触れる！

企業の経営や戦略について学ぶのは当然ですが、自身の**生き方やキャリアの考え方**を見直す場としての側面も強いと思います。キャリアには色々なルートがあり、**起業という選択肢**もあります。**この分野ではナンバーワンというニッチトップ企業の経営者**にも登壇いただいているので、大企業以外にも**高い利益率を誇る優良企業があることを**間近で知ることができます。経営者の体験談からは、**教科書では得られない生々しい意思決定の瞬間**を知ることができます。テクニックだけではなく、**経営者の哲学に触れる**ことができます。

Point 3

ロールモデルを自分の成長に！

様々な経営者の哲学に触れることにより、自分の**ロールモデル形成**の一助になると思います。授業や課題の中で、**経営者と自分の体験を照らし合わせ**、「自分だったらこうする。」「自分だったらできない。」といった**思考を巡らせる**ことにより、様々な気づきや学びを得ることができます。他の授業やグループディスカッション、課外活動の場面でも、困難な課題に直面したときに、この**一連の思考の積み重ねが広く活用できる**のではないかと思います。判断の軸が形成されるため、様々な場面で**自分の成長を実感**できるのではないかと思います。

学生に聞く推薦ポイント

異なる企業トップの実体験に学ぶ
企業哲学・人生学！

毎回**異業種の企業経営者の方が講師**を務め、**経営の苦労話や成功体験、人生観、経営の分岐点**などの具体的な話を直に聞くことができ、大変貴重な経験となりました。ここでしか聞けない話を通じて、その方の**価値観や物事の捉え方、大切にすべきこと**を学ぶことができます。



Solution

他者とのコミュニケーションの
重要性！

ある経営者の方が「**前向きに生きること**」を熱くお話くださり、**他者との関わり方、聞く姿勢、コミュニケーションの大切さ**について多くの学びを得ました。社会人として、知識だけではなく、**一緒に関わっていく他者との接し方**もとても重要だと感じました。就活の上でも、これから**社会人として必要な学びが得られた**気がします。



Stimulation

授業で学んだ体験を自分の成長へ！

ゼミや就活などのグループワークで、常に**前向きに周囲と協力**して進めるようになりました。**授業で学んだ体験を自分の体験のように活かす**ことで、コミュニケーションを工夫するようになり、次第に小さな**成功体験が自信に繋がる**ようになりました。活かせることは、少しでも**自分に当てはめると、成長に繋がる**と思います。



Growth

担当教員からのコメント

本授業は、実社会で活躍している経営者と接する貴重な機会を提供しています。多様な人生観と豊富な人生経験をもつ経営者の方々との積極的なコミュニケーションを通じて、キャリアに関する考え方や学びに向き合う姿勢が大きく変わり、自らの成長につながる

ことができます。この対話のサイクルを重ねることで、コミュニケーション力が磨かれるだけでなく、授業の理解も一層深まります。授業では勇気を出して一歩前に踏み出してくれることを期待しています。

夢なき者に理想なし

理想なき者に計画なし

計画なき者に実行なし

実行なき者に成功なし

故に、夢なき者に成功なし



吉田 松陰





国士舘大学 学長室IR課

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1

TEL : 03-5481-3141

発行日 : 2025年3月